

2025 トヨタジュニアゴルフワールドカップ最終日

6月27日（木）：中京ゴルフ倶楽部石野コース（愛知県豊田市）

最後まで結末の見えない熱戦。男子は日本が2年ぶり、女子はタイが初の栄冠を手にした。

昨年、初出場で2位と健闘したタイがついに悲願の優勝。初日、日本に5打のリードを付けられたが、第2日以降は3打差、1打差と徐々に詰め寄り、最終日で逆転に成功した。ポンペッチ・サラプティ監督は「追われる立場としてプレーするのは難しい。でも追いかける側ならチャンスがあると思っていた。誰が勝ってもチームで30アンダーを目標に設定した」。結果的には24アンダーでフィニッシュ。10年前に女子の部が新設されてから、初めて最終日にビハインドからの逆転劇となった。

最終18番ホール、最終組のクリチャンヤ・カオパッタナスクルの、ティーショットはまさかの池に。「17番のティーショットが少し右にいったので、自分のベストを打つことに集中した。でも、左に飛んでしまった」。サラプティ監督は「2打リードしているのだから、ボギーを打つ余裕がある」と告げた。カオパッタナスクルの4打目はグリーン奥からの難しいアプローチ。チームメイトのピンピサ・ルブロンとプリム・プラクナコーンが心配そうに見守る中、勝敗を左右するクラッチショットを見事にピン1.5メートルに付け、このホールをボギーとし母国の初優勝を手繰り寄せた。「かつて私が初めて日本に来た時、日本の選手には全く歯が立たなかった。タイの人たちも、とても喜んでくれると思う」いつもと変わらぬ温和な表情でサラプティ監督は喜びを噛み締めた。

第3日まで首位に立ちながら準優勝となった日本は、新地真美夏が個人優勝を達成し意地を見せた。「厳しい戦いになることは分かっていたし、タイのチームがとてもいいプレーをしていたのは知っていました」チームメンバーの岩永杏奈、長澤愛羅とともにスコアを伸ばすことができず、1打及ばなかった。

男子は日本が2年ぶりにトロフィーを掲げたが、こちらも最後まで予断を許さない戦いが続いた。第3日に2位のアメリカ、フランスに6打差を付けたもの、アメリカのブルックス・ロペスが66、ロレンゾ・ロドリゲスが65をマークする活躍で日本を1打リードする展開に。激闘に終止符を打ったのは最終組の長崎大星だった。最終ホールで第2打を約1.5メートルに付けバーディーを奪取。「最高のチームで優勝することができた。100点満点です」と笑顔を見せた。個人としても265ストロークでメダリストに輝き2冠を達成。大会前の記者会見で「ビッグスターになる」と公言通りの活躍でチームを引っ張った。

長崎と個人優勝を分け合ったのはコロンビアのトマス・レストレポ・ハラミリヨ。「ずっとアドレナリンが出続けていたんだ。自分の感情をコントロールできたことに満足しているよ」最終日、10番からスタートして前半を6バーディー、1ボギーの30で折り返すと、後半は6番から3連続バーディーを決め今大会のベストスコア64、7アンダーをマークした。コロンビア勢のメダリスト獲得は初めて、南米からは2016年のホアキン・ニーマン(チリ)以来の快挙となった。

30年の歴史を刻み、新たな一步を踏み出したトヨタジュニアゴルフワールドカップ。日本勢の活躍が目立つ中、タイの初優勝やコロンビア勢初のメダリスト誕生など、新しい風を確かに感じた今大会。メジャーチャンピオンの登竜門とも言えるこの大会を経て、ゴルフ界に新たなスターが羽ばたいてくれることを願ってやまない。